

「教育実習における自己評価と園評価から見る教育実習指導の検討」－客観的自己評価力の向上を目指して、教職実践演習につなげる－

著者	藤井 美津子
雑誌名	紀要
号	20
ページ	(1)-(13)
発行年	2018-02-20
URL	http://doi.org/10.32125/00000046

「教育実習における自己評価と園評価から見る教育実習指導の検討」 －客観的自己評価力の向上を目指して、教職実践演習につなげる－

藤井 美津子

**キーワード： 幼稚園教諭、教育実習指導、模擬保育、自己評価、教育実習、
実習指導園評価、教職実践演習**

1. はじめに

教育実習は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。又保育職を目指す学生にとって幼稚園教育実習は、将来の自分への強い動機付けを得る機会でもある。保育者を目指す学生、実習指導の中心となる幼稚園、学生指導を担う養成校それぞれの立場で充実した成果が得られるものでなければならない。本研究では、幼稚園教育実習事前指導である教育実習指導の中の模擬保育における学生の自己評価と他者評価、実習後における学生による自己評価と実習指導園による評価との比較を行うことで、今後の教職実践演習につなげ課題を探り、どのような点に重点をおけばよいか、示唆を得たいと考えた。

実習園による実習評価は、実習後の学生の学修を促し、保育・教育者としての専門性を向上させる。実習指導を行う養成校としては、実習生自身の保育・教育者としての自己認識と実習評価との間にどのような関係性があるのかを把握し、実習生の客観的な自己評価を促し、より高い専門性を身につけさせることが必要であると考えられる。

しかし、学生の自己評価と他者評価、実習園による評価は必ずしも一致しない。一致しない要素においては、学生が自らを過大(あるいは過小)に評価している可能性がある。これを是正し、自らを客観的に評価できるよう指導する必要がある。自らを客観的に評価できれば、自ずと実習園による評価も高まり、専門性の高い保育・教育者を養成することができるのではないだろうか。

本稿では、本学子ども学科2年生における6月の幼稚園教育実習の評価を対象とした。まず実習の概要、つぎに自己評価(2回における模擬保育の自己評価を含む)・園評価の比較、そして自己評価と園評価との関係について考察し、秋学期における教職実践演習につなげた。学生の貴重な学びの場であり、その後の職業選択に大きな影響を及ぼすであろう幼稚園教育実習が、学生にとってより意味のあるものになることを願いつつ、本学学生の特徴を整理し、データを有効に活用していきたいと考える。

2. 実習の概要

本学では、保育・教育実習の目的と内容・方法を次のように考えている。

〔1〕 実習の目的

保育・教育実習は、修得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践できる応用能力を養うため、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。

〔2〕 実習の内容

- ① 実習施設について理解させる。

- ② 保育の1日の流れを理解し、参加させる。
- ③ 子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解させる。
- ④ 保育課程・教育課程・指導計画を理解させる。
- ⑤ 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育・教育技術を修得させる。
- ⑥ 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる。
- ⑦ 記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭・地域社会を理解させる。
- ⑧ 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる。
- ⑨ 保育士・教諭としての倫理を具体的に学ばせる。
- ⑩ 安全及び疾病予防に理解させる。

[3] 実習の方法

- 保育・教育活動の実際を総合的に体験できるように、できるだけ実習生をクラスに配属していただけるように依頼する。
- 実習にさきだち、教育実習出席用紙を実習園に送付するとともに、実習生に所定の教育実習記録を携行させ、実習に関する記録を記入するように指導する。このため、実習園には実習学生に対して保育実習記録を提出させたり、実習に関する適当な課題を出しその報告を求めたりするよう依頼する。
- 実習園は、教育実習終了後できるだけ早期に学生の実習成績について評価を依頼する。

[4] 実習の種類と時期、実習生数 【表1】

年次	実習種別	実習施設における実習実施期間		実習生数
1年	保育実習Ⅰ	平成29年2月6日(月)～2月18日(土)	11日間	33名
1年	施設実習	平成29年2月27日(月)～3月11日(土)	11日間	33名
2年	幼稚園実習	平成29年6月5日(月)～6月23日(金)	15日間	36名
2年	保育実習Ⅱ	平成29年9月4日(月)～9月16日(土)	11日間	32名

〔5〕 実習園所在地域別（幼稚園実習） 【表 2】

設置主体	地域別	学生数
公 立	長 浜	15 人
	彦 根	8 人
	米 原	3 人
	豊 郷	1 人
	栗 東	1 人
	計	28 人
私 立	守 山	1 人
	湖 南	1 人
	計	2 人
県外 公立	岐阜県	1 人
	福井県	1 人
	兵庫県	1 人
	計	3 人
県外 私立	岐阜県	2 人
	福井県	1 人
	計	3 人
	合計	36 人

平成 29 年度の幼稚園教育実習は、36 名の学生が実習を行った。【表 1】

【表 2】は、学生の実習園の設置主体、実習園所在地域別にみた内訳である。実習園の設置主体は、公立がおおよそ 86%、私立が 14%であった。実習園所在地域別にみると、滋賀県内でおおよそ 83%、岐阜、福井、兵庫などの県外で 17%であった。

また、近年増えてきた認定こども園の実習は、全体のおおよそ 30%の割合であった。

3. 方 法

本学子ども学科に在籍する 38 名のうち、実習を経験する 36 名について、実習事前授業である 2 回の模擬保育後の反省と自己評価表を作成した。また、実習終了後、実習指導園の評価項目と同じ内容の評価項目をもとに自己評価表を作成し、実習指導園評価と比較してみた。

〔1〕 第 1 回模擬保育後の反省と自己評価 【表 3】

	学生数	反 省 項 目
時間配分について	15/36	想定していたよりも時間がかかった。
		早く終わりすぎて、次の活動を考えていなかった。
		時間が足りなかった。待たせている時間が長すぎた。等
保育内容について	14/36	指導案どおりに行かなかった。準備不足だった。
		遊びの様子を見通した予想ができていなかった。
		見本を見せるときの工夫が足りなかった。等
指導方法について	25/36	期待感を持たせるような言葉がけの足りなさを感じた。
		緊張して思うように言葉が出なく硬くなってしまった。
		わかりやすく大きく見せる等説明不足であった。等

〔2〕 第1回模擬保育後のグループでの話し合いをして気づいたこと

- 私は模擬保育で失敗をして、とても自信を失っていたけれど、みんなからいいところを言ってもらったり、アドバイスをもらってとても良かったです。このアドバイスをしっかりもって実習に役立てたいなと思いました。
- みんなからのアドバイスをもらって、もう一度指導案を見直したり、アイデアを練り直して、実習で実践してみたいと思います。他の人たちの模擬保育や指導案も参考になったので、取り入れていきたいと思います。
- みんなからのコメントで「よい」という意見も多くて良かったです。しかしもう少し工夫できる場所もあったので周りの様子を見て、楽しんでいるかなとか飽きていないか、わからない子どもはいないかなどよく観察する必要があると思いました。
- あたらしいアイデアだったという声や、自分が工夫した声かけや、針金を「魔法の道具」と言い表したことがみんなに好評だったので、そういう小さな工夫がこれからも大切なんだと改めて気づきました。
- グループ内のメンバーの感想を聞いて、改善するところもはっきり言ってもらったし、褒めてもらったところもあった。特に絵本を読む位置をもう少し考えると子どもも集中して読み聞かせを聞くことができたのではないかとアドバイスは、些細なことだけれど自分では気づかない点だったのでとても参考になった。
- 見本を置いたり言葉かけや遊び場を設けることに対して、評価してもらって良かった。見通しがもてない、何をするかわからないような感じになったので、玩具を作るということを伝える時に、どのように遊ぶのか、どういう玩具を作るのかを説明したらいいというアドバイスをもらい参考になった。

〔3〕 第2回模擬保育 自己評価票 【表4】

指導案について ・提出期日は守れたか ・記入漏れはなかったか ・丁寧に書かれていたか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導案 合計 点	指導案についての考察
指導内容について ・活動しやすい導入であったか ・わかりやすい説明であったか ・言葉かけは適切であったか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導内容 合計 点	指導内容についての考察
指導者として ・はっきりと大きな声が出せていたか ・服装、言葉づかいは適切だったか ・てきぱきした動きだったか	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5	指導者 合計 点	指導者としての考察

1=努力が必要 2=あと少し 3=普通 4=おおむね達成できた。 5=達成できた。

第2回模擬保育 自己評価結果表 (平均)

【表 4-1】

<p>指導案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出期日は守れたか ・記入漏れはなかったか ・丁寧に書かれていたか 	<p>1・2・3・④・5 1・2・③・4・5 1・2・3・④・5</p>	<p>指導案 合計平均 11 点 1 項目平均 3.7 点</p>	<p>指導案についての考察 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出期日は守れたが環境構成など模擬保育をしてみてもきちんと書けていない事に気づいた。 ・丁寧に心がけて指導案を作成した。実習で実践したいと思う。 ・細かく書きすぎていてわかりにくかったので、端的に書く練習も必要だと気づいた。 ・前回の指導案より子ども達の姿をイメージして作成できたが、環境設定をもう少し工夫する必要があるがあった。
<p>指導内容・指導方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動しやすい導入であったか ・わかりやすい説明であったか ・言葉かけは適切であったか 	<p>1・2・③・4・5 1・2・③・4・5 1・2・③・4・5</p>	<p>指導内容 合計平均 9 点 1 項目平均 3 点</p>	<p>指導内容についての考察 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育では「練習」という言い方をしてしまったが、実際は子ども達には伝わらないと反省した。 ・導入の絵本が好評だったしゲームの説明もがんばったが、自分のペースで進め一人ひとりに言葉かけができていなかった。 ・今回は導入なしでいきなりルールの説明から入ったので、実習では導入やわかりやすい説明がいたと思った。
<p>指導者として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと大きな声が出せていたか ・服装、言葉づかいは適切だったか ・てきぱきとした動きだったか 	<p>1・2・3・④・5 1・2・③・4・5 1・2・③・4・5</p>	<p>指導者 合計平均 10 点 1 項目平均 3.3 点</p>	<p>指導者としての考察 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声を出し、楽しい雰囲気のできたものの子ども達の主体的な活動につながらなかった。 ・ズーと動的な活動だったので、様子を見て休憩や水分補給も必要だと感じた。 ・動きやすい服装を意識して用意したが、いざ皆の前に立つと色が暗くて不適切かなと感じた。 ・はっきりと大きな声は出せたが、言葉づかいは反省するところがあった。周りの声に圧倒されて流されてしまう場面もあり、子どもの気持ちを考えて行動できるようにしたい。

第2回模擬保育

自己評価と他者評価の比較

【表 4-2】

	学生名	自己評価点数 (1項目平均点数)	他者による評価点数(1項目平均点数)
自己評価成績上位郡	A	4.6 	3.8 (-0.8)
	B	4.4 	3.3 (-1.1)
	C	4.0 	2.8 (-1.2)
自己評価成績中位郡	D	3.4 	4.3 (+0.9)
	E	3.4 	3.9 (+0.5)
	F	3.3 	4.9 (+1.6)
自己評価成績下位郡	G	2.8 	3.9 (+1.1)
	H	2.4 	4.2 (+1.8)
	I	2.2 	3.9 (+1.7)

〔4〕 教育実習自己評価 と 実習園評価

本学における教育実習評価票の評価項目は、姿勢・資質面と知識・技能面に分け、それぞれに評価項目を細分し、それに対して「実習生として優れている」「実習生として適切である」「実習生として努力を要する」の3段階にチェックを入れてもらい、総合評価として、秀・優・良・可・不可の評価をいただいている。

上記の評価基準をもとに、幼稚園実習後自己評価表を作成した。【表5】の通り、17項目からなり、「3.よくできた」「2.できた」「1.できなかった」の3段階で回答を求めた。またそれぞれの項目に、わかりやすい評価観点を付け加えた。例えば①意欲・積極性では・主体的に行動し、自ら仕事を探すなど進んで実習に取り組もうとしたか・指導された内容を受け止め、次の実践に反映できたか等、すべての項目について記している。

教育実習（幼稚園）自己評価票 【表5】

3 = よくできた (優れている)、2 = できた (適切である)、1 = できなかった (努力要する)

項目	評価内容	評価の観点	自己評価
姿勢・資質	① 意欲・積極性	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に行動し、自ら仕事を探すなど進んで実習に取り組もうとしたか ・事前準備や事前学習をするなど主体的に実習に取り組んでいたか ・自ら積極的に質問することができたか ・指導された内容を受け止め、次の実践に反映できたか ・様々なことに興味関心を持って実習が行えたか 	3 2 1
	② 勤務態度	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や規則を守っていたか ・職員や利用児・者に対して挨拶や言葉遣い、礼儀は適切であるか ・身だしなみは適切であったか ・健康管理はできていたか 	3 2 1
	③ 職員との関係・協調性	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の助言や指導を素直に受け止めることができたか ・職員からの指示を理解し、やりとげようとしたか ・職員へ自ら話しかける等の協調的な姿勢を示していたか ・一緒に働く職員・実習生等と協働して業務することができたか 	3 2 1
	④ 明朗性	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感を与えるような笑顔や表情でかかわることができたか ・活気・覇気が感じることができたか 	3 2 1

知識・技能	⑤ 責任感	<ul style="list-style-type: none"> 決まった出勤時間や提出物等の期限を守ることができたか 報告・連絡・相談の重要性を認識し、行動できていたか 最後までやり遂げることができていたか 言葉だけでなく行動が伴っていたか 	3 2 1
	⑥ 実習課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 実習に対する目標や課題を明確にし、それに対して取り組めていたか 	3 2 1
	① 施設の理解	<ul style="list-style-type: none"> 施設の役割や機能について理解しようと努めたか 実習施設の概要を理解できたか 	3 2 1
	② 一日の流れの理解	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活と一日の流れについて理解できたか その中における職員の流れを理解できたか 	3 2 1
	③ 子どもの発達を理解	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達の特徴について理解しようと努めたか 	3 2 1
	④ 保育計画・指導計画の理解	<ul style="list-style-type: none"> 実践における計画立案の重要性を理解できたか 	3 2 1
	⑤ 保育技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> 教材用具の準備と環境整備の必要性が理解できたか 保育の一部を実際に担当し、子どもの援助・指導ができたか 	3 2 1
	⑥ チームワークの理解	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職種との連携の重要性を理解できたか チームワークの重要性を理解できたか 	3 2 1
	⑦ 家庭・地域社会との連携の理解	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域との連携の重要性を理解できたか 	3 2 1
	⑧ 子どもとのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとよい関係を築けたか 子どもと積極的にコミュニケーションをとろうとしたか 子どもに偏りなく関わることができたか 子どもひとりひとりにあったかかわりができたか 	3 2 1
	⑨ 職業倫理の理解	<ul style="list-style-type: none"> 専門職としての業務内容について理解できたか 子どもの権利擁護とそれに基づく行動をすることができたか 倫理について理解できたか 	3 2 1
⑩ 健康・安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康・安全の重要性を理解し、配慮できていたか 	3 2 1	
⑪ 実習記録	<ul style="list-style-type: none"> 実習記録の意味を理解し、適切な記述ができていたか 誤字脱字、適切な言葉遣いはできていたか 考察はできていたか 提出期限は守れていたか 	3 2 1	

実習後における実習生自己評価 【表 5-1】

区分 \ 自己評価項目	意欲・積極性		勤務態度		職員との関係・協調性		明朗性		責任感		実習課題に対する取り組み	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 (よくできた)	7	20%	19	53%	8	22%	15	42%	12	33%	9	25%
2 (できた)	26	72%	15	42%	26	72%	20	56%	22	61%	24	67%
1 (できなかった)	3	8%	2	5%	2	6%	1	2%	2	6%	3	8%

区分 \ 自己評価項目	施設の理解		一日の流れの理解		子どもの発達の理解		保育計画・指導計画の理解と実施		保育技術の習得		チームワークの理解	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 (よくできた)	11	31%	18	50%	12	33%	6	17%	6	17%	13	36%
2 (できた)	25	69%	17	47%	23	64%	28	78%	28	78%	22	61%
1 (できなかった)	0		1	3%	1	3%	2	5%	2	5%	1	3%

区分 \ 自己評価項目	家庭・地域社会の連携の理解		子どもとのかかわり		職業倫理の理解		健康・安全への配慮		実習記録	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 (よくできた)	13	36%	19	53%	5	14%	12	33%	8	23%
2 (できた)	18	50%	16	44%	29	80%	23	64%	25	69%
1 (できなかった)	5	14%	1	3%	2	5%	1	3%	3	8%

実 習 園 評 価 【表6】

区分 \ 園評価項目	意欲・積極性		勤務態度		職員との関係・協調性		明朗性		責任感		実習課題に対する取り組み	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 (優れている)	14	39%	19	53%	10	28%	14	39%	12	33%	7	20%
2 (適切である)	18	50%	15	42%	23	64%	20	56%	20	56%	25	69%
1 (努力を要する)	4	11%	2	5%	3	8%	2	5%	4	11%	4	11%

区分 \ 園評価項目	施設の理解		一日の流れの理解		子どもの発達の理解		保育計画・指導計画の理解と実施		保育技術の習得		チームワークの理解	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 (優れている)	4	11%	12	33%	3	8%	4	11%	3	8%	7	20%
2 (適切である)	31	86%	22	61%	29	81%	25	69%	27	75%	25	69%
1 (努力を要する)	0		2	6%	4	11%	7	20%	6	17%	4	11%

区分 \ 園評価項目	家庭・地域社会の連携の理解		子どもとのかかわり		職業倫理の理解		健康・安全への配慮		実習記録	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
3 (優れている)	1	3%	13	36%	4	11%	3	8%	6	17%
2 (適切である)	33	92%	20	56%	31	86%	31	87%	26	72%
1 (努力を要する)	2	5%	3	8%	1	3%	2	5%	4	11%

実習園評価と実習生自己評価値の比較（1項目平均数値） 【表7】

園評価 / 実習生自己評価	意欲・積極性 平均数値	勤務態度 平均数値	職員との関係 協調性 平均数値	明朗性 平均数値	責任感 平均数値	実習課題に対する 取り組み 平均数値
実習生評価	2.1	2.5	2.2	2.4	2.3	2.2
園評価	2.3	2.5	2.2	2.3	2.2	2.1
比較	+0.2	0	0	-0.1	-0.1	-0.1

区分 / 園評価項目	施設の理解	一日の流れ の理解	子どもの発 達の理解	保育計画・指導計 画の理解と実施	保育技術の習 得	チームワー クの理解
実習生評価	2.3	2.5	2.3	2.1	2.1	2.3
園評価	2.1	2.3	2.0	1.9	1.9	2.1
比較	-0.2	-0.2	-0.3	-0.2	-0.2	-0.2

区分 / 園評価項目	家庭・地域社会 の連携の理解	子どもとのか かわり	職業倫理の理 解	健康・安全への 配慮	実習記録
実習生評価	2.2	2.5	2.1	2.3	2.1
園評価	2.0	2.3	2.1	2.0	2.1
比較	-0.2	-0.2	0	-0.3	0

4. 結果と考察

(1) 実習前第1回目の模擬保育による自己評価と他者評価

学生による実習前模擬保育による自己評価がそれぞれ【表3】と【表4-1】である。第1回目の模擬保育では【表3】のように約70%の学生が、指導方法の不安や反省を多く書き込み実習に対する不安要素となっているのがわかる。時間配分や指導内容についての不安や反省は40%に留まっている。保育実習Ⅰの経験がいかされている結果であろう。又、模擬保育グループによるその後の話し合いでは、学生同士忌憚なく意見を出し合うことで

「模擬保育で失敗をして、とても自信を失っていたけれど、みんなからいいところを言ってもらったり、アドバイスをもらってとても良かったです。このアドバイスをしっかりもって実習に役立てたいなと思いました。」

「みんなからのアドバイスをもらって、もう一度指導案を見直したり、アイデアを練り直して、実習で実践してみたいと思います。他の人たちの模擬保育や指導案も参考になったので、取り入れていきたいと思います。」

等、客観的に自分の保育を振り返り、今後の実習に前向きに取り組もうとする姿が見られた。

(2) 実習前第2回目の模擬保育による自己評価と他者評価

第2回目の模擬保育では、【表4】のように模擬保育後の振り返りで、点数をつけることで客観的に自己評価ができるように促した。同時にグループ内の模擬保育に子ども役で直接参加することにより他者評価を行い、自己評価の点数との比較をすることで反省点を見つけ出すよう工夫した。

結果は【表4-1】のように、一番点数の高かった指導案作成については、経験を重ねることで慣れてきて、以前よりすらすらと書けるようになったとか、指導案が重荷ではなくなってきた等の意見が多かった。また、丁寧さを意識するあまり書きすぎて返って読みづらくなってしまったなどあらたな課題を見つけた学生もいた。

次に自己評価の高かった指導者としての項目では、実習を目前に控えマナーや敬語の使い方等実習態度の向上に向けて自身を客観的に見つめてほしいと取り入れた。結果的には他の学生の言い回しや声の大きさ等は批判できても、自身の敬語の使い方や話し方、用件の伝え方に対しては、まだまだ甘く認識不足であると感じる。敬語に関しては、日常的に敬語を使う習慣がなく、敬語を使うことに慣れていない、敬語がわからないといったことが原因と考えられる。

一番自己評価の低かった指導内容・指導方法については、第2回目の模擬保育の場所を体育館に設定し「体を動かして遊ぶ」というテーマを取り入れたため、制作や絵本などと違い「ゲームのわかりやすい説明の方法」や「臨機応変に」といった専門的な対応について戸惑う学生が多かった。しかし、子どもに伝わる言い方や一人ひとりへの声かけなど、以前では聞かれなかった深い反省ができていたことがわかった。

これらの自己評価を他者評価と比較してみると、【表4-2】のように自己評価成績上位郡の学生A・B・Cのように、自己評価と他者評価におおきな差があるのがわかる。これらの学生は、様々な点で基準が甘いと考えられる。反対に自己評価の低かった学生G・H・Iに関しては他者評価が平均1.5ほど高くなっている。要因として実習前の不安感が強く、何事に対しても自信を無くし慎重に構え、点数を下げているのがわかる。

(2) 教育実習後の学生による自己評価と実習指導園評価

本学における教育実習評価票に基づき、自己評価票を【表5】のように作成し実習後に行なった。その結果が、【表5-1】の通りである。勤務態度や1日の流れの理解、子どもとのかかわりでは約半数の学生が「よくできた」と答えている。反対に「できなかった」が一番多かった項目は、家庭・地域社会の連携の理解であった。

実習園による評価が【表6】である。勤務態度など高い評価をいただくことができたが、保育・教育技術の修得や指導計画の理解と実施など厳しい評価になった。

これらの学生による自己評価と実習指導園評価の平均点を比較したものが【表7】である。

個々の項目を見ると、意欲や積極性、勤務態度、協調性などの得点がわずかではあるが、自己評価よりも園評価の方が上回る結果となった。これは、実習生の学ぶ姿勢や人柄が評価され、実習の成果につながったと推測される。反対に子どもの発達の理解や健康・安全への配慮は、自己評価よりも園評価の得点がかかなり下回っている。これは、学生自身がそれらの項目に対するとらえ方が甘く、自身の実習を客観的に評価することができていないことを示すと考えられる。

また、【表 4-2】にあげた模擬保育後の自己評価上位郡の学生A・B・Cに関しては、他者評価（模擬保育グループの他の学生からの評価）がかなり低くなっている。これらの学生は実習後の自己評価においてもほとんどの項目に「よくできた」と評価しており、実習園からの厳しい評価とおおきな差があった。園からの総合所見においても、実習記録の誤字脱字や文章表現、保育準備の不足などの指摘があった。これらの事から、学生A・B・Cについては、客観的に自分自身を見つめなおすことができず様々な点について認識不足であると感じる。

一方、自己評価下位郡の学生G・H・Iに関しては、模擬保育後の他者評価は、はるかに高かった。これらの学生の実習後の自己評価は「できなかった」という評価が多く、「よくできた」はあまり見られなかった。実習園からの評価の方が高い結果となった。しかし、総合所見において、丁寧さや真面目さはあるものの消極的や積極性に欠けるなどの指摘があった。これらの事から、学生G・H・Iについては、日々の生活の中で自信を取り戻すきっかけが必要なのではないかと考える。

自己評価中位郡の学生D・E・Fは、模擬保育後の他者評価がかなり高く全体の上位に入っている。実習後の自己評価と実習園評価がよく似た結果となっている。総合所見においても、勤務態度の真面目さや積極性、指導を素直に受け入れ学ぼうとするなど高い評価をいただけた。これらの事から、学生D・E・Fについては、日々の安定した生活態度から、課題意識を持ち実習に臨んだ結果であろうと考える。

(3) 秋学期 教職実践演習における模擬保育

以上の結果を踏まえ、実習がすべて終えた秋学期に取り組んだ教職実践演習の中における模擬保育では、学生の意識変容を目の当たりにすることができた。実習前の模擬保育では、一人担任を想定して取り組んだが、教職実践演習の中では、2人～3人のグループを作り、主担任・副担任・補助などそれぞれの立場になり保育を実践してもらった。ほとんどの学生が就職も決まり安定した中での取り組みであったので、実習前に行なった模擬保育に比べると、評価や結果ばかりを気にすることなく、保育そのものを楽しみ、現場に行ったら是非自分も取り組んでみたいと言う前向きな感想が多く聞かれた。学生が経験する最後の模擬保育となる教職実践演習後の学びの記述は次のようであった。

- ・4 グループの模擬保育をみて、参考になる所がたくさんあって勉強になった。〇〇さんのグループでは、伝統的なもの、日本の文化を子どもにどのように伝えるか、又それを身近に感じ親しみが持てるようにみんなで蕎麦を作るのは面白いと思った。活動に沿った内容で先生(学生)たちの声かけで、1つ1つの声かけの大切さ、指導案の理解、共有の大切さが良くわかった。〇〇さんのグループのリズム遊びで、リズムに親しみが持てるようにトマトのリズムにしたりする工夫にはすごく驚いて私もしたいと思った。〇〇さんのグループは福笑いという伝統的な昔の遊びでそれを分かりやすく伝えるためにやって見せたり、1つ1つ見守り声かけする姿や距離感がとても勉強になった。また、みんなで意見を出し合い言葉で伝え合って楽しめる内容でよかったと思うのでやってみたい。〇〇さんのグループは年賀状についての知識を伝えたり、5歳児でも分かりやすく理解できると思ったので、真似したいと思ったし、はじき絵のもっていき方を実際に見ることもできたし、現場でも実際しやすくなったしありがたいと思った。色々なグループの良いとこどりをして模擬保育に臨み、自分の力にしたい。
- ・保育者(学生)が笑顔で関わっていたり、声かけや説明が丁寧だったりと私には足りないところができていて、とてもためになった。今回は全員4歳児対象で、文字を使う場面が多くあったが、4歳児では、読める子どもと読めない子どもの個人差がまだあると思う。その中で文字が読み書きする前提で

制作やゲームをすると、おいていかれる子どもがいて、ゲームに参加できず悔しかったり、やる気をなくしたりするかもしれない。その配慮はもう少しの方が良いと思い、5歳児でやっても良いかなと感じた。4歳児と5歳児の区別は難しいが、そこをもう少し見極めて日案や指導計画を立てたいなと私も思い返すところがあった。

- ・今日の模擬保育では保育担当グループになり、制作をするにあたって、どのような環境で声かけや配慮が必要かを改めて学ぶことができた。今回補助という立場になり保育を展開していくのに、今どのようなことをするべきかを考え先回りに行動する難しさや、言葉かけの大切さを感じることができた。最初にボンドで綿をつける説明をしていなかったで、「知らなかった」「描いちゃった」などの声があり、先に綿をどこにつけるかも伝えておく必要があった。又、他のグループが制作するとき、のりがつけやすく、机がべたべたにならないように下敷きをしたりする様子を見て、今回制作をしてみて、子どもの目線から楽しみを持ち、やりやすくなるような環境を整えることが大切だと改めて担当になって感じた。

5. ま と め

本研究では、実習前指導である2回にわたる模擬保育後の学生自身による自己評価と他者評価、その比較、幼稚園教育実習における自己評価と実習指導園による評価との比較をおこない、その結果を踏まえて、最後の模擬保育を取り入れた教職実践演習の中でどのように学生が変容するかを探ってきた。

結果は模擬保育において他者評価が高かった学生は、実習後の自己評価より園評価が高い結果となった。当然のように学内でも好成績を修めている。

また、模擬保育時他者評価が高いにもかかわらず、自己評価が極端に低い学生は、実習においても十分な力を出せずに「消極的」という結果に終わっている。実習に対しての十分な準備、心構えは必要であるが、過度な不安感を持たずに、自信を持って行動することがよい結果につながるものと考えられる。

また、どの自己評価も高かった学生は、他者評価・園評価ともに低く、自分の力量を客観的に評価できていないこと、実習に臨む姿勢の甘さが浮き彫りとなった。また、挨拶、礼儀、チームワーク、協調性といった人間性やコミュニケーション能力にも課題を持つ結果となった。日常からの言動、自己評価能力に対しての教育的アプローチが必要であると考えられる。

全般的に実習後の自己評価は、園評価に比べて甘いものとなったが、実習前指導の一環として取り入れた2回の模擬保育や実習を通して、客観的に自己評価ができるようになった学生も多い。事後指導において、学生が自分自身の実習を振り返る経験を言語化して発表する機会を設けた。これは、課題を明確化するとともに、自己成長を実感できる取り組みにもなった。

評価項目の中で、園評価、自己評価共に低かったのが、「保育計画・指導計画の理解と実施」「保育技術の習得」の2項目であった。これらは、実習生の力不足に起因すると考えられる。しかし、これらは、保育の実践の場、教育実習の場そのものでトレーニングされていく内容とも言える。大切なことは、幼児の理解、実習記録、実習に取り組む姿勢などを実習前に強化し、現場で対応できるだけの力をつけておくことであると考えられる。

「健康・安全への配慮」の評価項目において、園評価と自己評価の関連が薄い結果となった。実習生の評価ほど園の評価が高いとはいえない。これは、実習生と園の先生方の価値観の違いに起因するものではないかと推測される。実習中に何人かの学生が体調不良を訴えて欠席したり、何度も電話で不安を訴

えたりと心身ともに学生自身の健康管理が問題にもなった。

実習園によって評価基準が異なるため、成績と自己評価の関係は正確とは言えない。しかし、学生全体として、実際の保育と関連付けて指導計画や保育技術を理解する力が不足していることが示唆される。教育実習は、学生にとっては自身の保育・教育者としての適性を見極める機会でもある。この貴重な経験と学びの場である教育実習が、より充実した内容をもって行われることが望まれる。そのためには、学生自身が、しっかりとした目的意識を持つ必要がある。教育実習指導の中で効果的な事前指導を行うことによって、実習の目的を確認し、学生は十分な準備と心構えをもって臨むことができるであろう。

また、保育実習や施設実習も含めいくつかの実習を経験することにより、自分の自己評価の甘さに気づいたり、あらたに課題を見つける学生もいた。そこから秋学期の教職実践演習につなげたことで、学生のしっかりした意識変容をとらえることができた。実習で学んできたであろう保育技術を模擬保育の場で披露することで、他の学生が是非取り入れて自分もやってみたいと感想を伝えたり、見守りや声かけや距離感の大切さ等、実習前の模擬保育では聞かれなかった深い捉え方もできていた。また、活動による年齢の考察も以前なら漠然と捉えていたものを、子どもをみてしっかり見極める必要があるなど厳しい指摘もできるようになっていた。保育担当になり副担人や補助の立場になることで、指導案の作成から連携や共有の大切さを改めて感じたり、先を考慮どのように動くべきなのかを悩む学生もいた。これらは、保育者として働く未来の自分と現在の自分とを照らして、意識を変容させ、新たな課題発見につなげたり、保育観の基盤づくりを行っているという学びの様相が明らかになった。いくつかの実習経験を経て学び、さらに秋学期の教職実践演習につなげることで、学生の技術面ばかりではなく、心情面を育むことにつながっていることが見えてきた。

格差社会の到来の中、新卒者離職率が上昇している。若者を取り巻く社会状況も、有能な保育・教育者が育ちにくい環境であることを重い事実として受け止めなければならない。そんな中だからこそ、本学の建学の精神に則り、卒業後も努力・向上し歩んでいける保育・教育者、専門的な技術や知識をしっかりと身につけ、豊かな情操をもち、社会に貢献できる保育・教育者をめざし、養成校としての役割を果たしていきたい。

子ども学科 准教授

藤井美津子

【引用文献・参考文献】

- 1) 滋賀文教短期大学 教育実習実施要項
- 2) 滋賀文教短期大学 平成 28 年度教育実習評価票
- 3) 加藤渉・島田直哉「幼稚園教育実習における実習指導園評価と自己評価の比較」一宮女子短期大学紀要 2007 年
- 4) 加藤渉「保育者養成短期大学における「幼稚園教育実習事前・事後指導」の在り方の検討 一宮女子短期大学紀要 2009 年
- 5) 日本保育者養成教育学会 第 1 回研究大会 プログラム・妙録集 89P